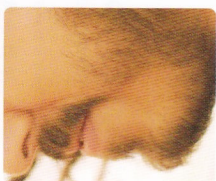


世界が驚愕！世界が感動！  
世界が絶賛！

アカデミー賞® 作品賞ほか  
6部門ノミネート!

作品賞、助演男優賞(デヴ・パテル)、助演女優賞(ニコール・キッドマン)、  
脚色賞、撮影賞、作曲賞



## 25年間迷子だった男が Google Earthで 起こした奇跡とは――？



25年目のただいま



**デヴ・パテル**  
『スラムドッグミリオネア』

ルーニー・マーラ  
『キヤロル』

デヴィッド・ウェンハム  
「オーストラリア」

**& ニコール・キッドマン**  
『グレース・オブ・マホー 公爵の娘以外』

[illegible]

監督: ガース・デイヴィス 製作: イアン・カニング『英皇王のスピーチ』  
提供: ギャガ・テレビ東京 配給: ギャガ GAGA★ <http://www.gagatv.com> <http://www.gaga.com>

























4.7 FRI

**GAGA★**

こんな素敵な映画を作ってくださって、ありがとうございます！

こんな出会いがあるから、  
ぼくは映画から離れることができないんだとおもいます。

坂上忍 (俳優)

本当の頑張りと愛を感じました。  
そしてタイトルの意味がわかったとき、心が躍りました！

LILICO (映画「ナビゲーター」)

最後の最後、「ライオン」というタイトルの  
意味を知ったとき、涙がこみ上げた。

町山智浩 (映画評論家)

「LOW」なるほど。「LOW」。

「見当違いなタイトルが後半でしくりくる。

役者の皆さんの繊細な表現と

インドの情景にラストまで釘付けにさせられた。

それにしても、Google Earthでつづつ見えなあ!!

ヒヤダイン (音楽クリエーター)

主人公の圧倒的な生命力、

彼を支えた人々の深い愛情に感動。

彼のような子供達の目に映る世界が、

優しいものであつてほしいと願わずにはいられません。

豊田エリー (女優・タレント)

とめどなく溢れ出てくる涙に、  
心の瞳を洗ってもらいました。

勝俣州和 (タレント)

小4でドイツから日本に移住した時、僕を襲った喪失感。

サルーの失望感に共感し奇跡に大いなる希望を抱いた！

サッシャ (音楽「ROADSHOW」ナビゲーター「WAVE」ナビゲーター)

こんな奇跡が実在するなんて。悲しい瞳の小さなライオン。

彼は25年間ずっと、獅子奮迅の勢いで走っていた。

サヘル・ローズ (タレント・女優)

つながらない記憶。懐かしいあの風景。

そんなものはどこかに置いてきた過去だとあきらめられるだろうか？

これは現代テクノロジーがもたらす

「母をたずねて三千里」の物語だ。

増田セバスチャン (アートディレクター)

孤獨な作業を続ける男と、周りの人々の想いが、ひしひしと伝わり、

家族とは？幸せとは？を深く考えさせられる。

結果分かっているとはいえ、あふれ出る涙を抑えられない。

石丸幹二 (俳優・歌手)

母は人生の全てを教えてくれる故郷だ。

母の目に感謝を込めて、又世界の全ての子供達の幸せを折り続けたい。

三田寛子 (女優・タレント)

# 人生は時に、奇跡を起こす。

物語の素晴らしいところは、  
夜のカルカッタの色彩感が戦慄するほど  
リアルだったのが印象的です。

ユザン (タブラ奏者)

凄実話で在る!!その実話を見事に具現化した。

そこには、5歳で迷子になるサルー役の少年。

帰る決心をした青年サルー。2人の瞳の純度である。

片岡鶴太郎 (俳優・画家)

ネット時代の「母をたずねて三千里」と思ふなれ。

主人公サルーが探し求めたのは、

現代を生きる我々すべてが失いつつある、慈愛の精神だ。

単なる感動物語でない。ラストシーンで流した涙は、  
映画全体に程よく効いている香辛料のせいだ。

大根仁 (映像ディレクター)

幼い頃の記憶と、最新技術の奇跡的な融合。

失われた人生が、今、

圧倒的な感動でスクリーンに甦る。

見城徹 (株式会社 幻冬舎 代表取締役社長)

我々はどこから来て、どこへ行くのか?こんな世界になつてもなお、

絶望を乗り越えるすべを提示してくれている救いの映画だ。

佐野史郎 (俳優)

圧倒的な故郷への想い、

それを表現する映像美に魂がふるえた。

武田双雲 (書道家)

奇跡の再会を果たした産みの絆の力は凄。

その力は育ての絆がたたえた

深い愛が呼び覚ましたことに驚愕した。

志茂田景樹 (作家・よい子に読み聞かせ隊隊長)

養子縁組は世界に必要な事だと突きつけられ、

いっばい泣かされ、大切なことを沢山教えてくれた。

IMALU (タレント・アーティスト)

デヴ・パテルの演技に、手が腫れるほどの拍手を送りたい。

ハ・マ・オカモト (OKAMOTOS)

「当たり前」にやってくる「明日」をちゃんと疑う機会を、

また映画にもらった。

大沢伸一 (ミュージシャン)

産みの母と育ての母。人種も生活環境も違う2人の母には共通項がある。

子どもへの深い思い。感動した。

室井佑月 (作家)

(遠不同・歌劇場)

